

令和6年度 第1回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和6年7月3日（水） 午後1時30分 開会
午後3時45分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場分庁舎 2階 BC会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 市川 隆 ・教育長職務代理者 望月 聡美
・教育委員 渡邊 正志 ・教育委員 望月 正宏 ・教育委員 山本 純司
- 4 事務局等の出席者
町長部局 秘書政策監 滝 基成 総務課長 遠藤 一明
教育委員会事務局 学校教育課長 若林 将基 生涯学習課長 遠藤 賢
- 5 協議事項
(1) 令和6年度の取組方針について（教育委員会・学校教育課・生涯学習課）
(2) 令和6年度南部町教育支援センター事業について
(3) 南部地区小学校の適正配置について
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 （望月聡美教育長職務代理者）

蒸し暑い日々が続いておりますが、本日は総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。令和6年度初めての総合教育会議ということで、今年度の取り組み方針についてなど重要な議題が盛りだくさんですが、子供たちの教育や町民の皆さんのためになるような有意義な話し合いにしたいと思います。本日はよろしくお願いします。

2 町長あいさつ

歴史資料室の資料が配布されて、芦澤和彦先生の名前がありますが、本当に残念です。教育関係を一生懸命やっていただきましたけど、その他にも本当に町のためにいろんなところに参画していただきました。今朝、お悔やみに行ってきました。本日も統合などの議題がありますが、芦澤先生の意思に添うように進めていきたいと思います。

3 教育長あいさつ

皆さん、あらためましてこんにちは。今日は芦澤元教育長には、2年間お仕えをしたということで、温かいお人柄を思い出すと本当にやりきれない気持ちです。町長は、先ほどおっしゃったように、しっかりと後を継いでいきたいと思います。

教育委員の皆様には午前の定例会に引き続きということで、よろしくお願いいたします。新教育委員会制度の発足と同時にスタートしたこの総合教育会ですけども、今年で10年ということになります。この会議の位置付けですけども、皆さんもすでにご承知のことだと思いますけれども、あらためて確認をさせていただきますと、町長と教育委員会は、教育行

政の大綱や重点的に講ずべき施策等について協議、調整を行う場であり、両者が教育施策の方向性を共有し、一致して執行することが期待されるもので、この会議で調整がついた事項については、それぞれその結果を尊重して事務を執行するとあります。歴代教育長からの申し送りには、この会議がいつも忌憚のない意見が活発に交換され、大変有意義だった。この流れをしっかりと継続して行ってほしいとありました。教育の継続性、安定性の確保といった法の趣旨からのこの会の機能を維持発展させていくことが肝要であると認識をしております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。限られた時間ですが、充実した時間になりますよう、よろしくお願いいたします。

4 議 事

(1) 令和6年度取組方針について (教育委員会・学校教育課・生涯学習課)

【教育委員会の取組方針については教育長、学校教育課の取組方針については学校教育課長、生涯学習課の取り組みは生涯学習課長から説明しました。】

(望月(正)委員) 1ページの特別重点施策の7番は、地域移行でいいのか。

(市川教育長) この当時は地域移行とっていましたが、今年になってからは部活動の地域クラブ活動への移行という言い方になりました。内容的には変わらないです。

(町長) 県下で教員のなり手が少なく、教員不足になっています。いちばん危惧しているのは、限られた人数が、教員が都市部に充てられてしまうのではないかと、山間部は取り残されるのではないかと心配をしています。建設技術系職員も人手不足もこともあり、専門職については県職員を派遣してほしい旨を依頼したこともあったが、同じように教員にも言えることでだと思います。しかし、教員のレベルをさげてまで増員することは、子供たちの学力低下にもつながる恐れがありますので、これも困るかなという気がします。

(望月(正)委員) 南部町は町単教員が多い、そのためにもきめ細かな教育ができていて、他町から来た先生も感じていると思います。この学校要覧には町単の表示がないのでちょっとわかりにくいですが、町単の先生方とか支援員の先生方が大勢いるのですけども、みんな末永くできるかっていうと、そういう年齢ではないのですが、力のある先生方がいて学校現場で非常に助かって、恵まれた教育環境であると思います。

(町長) 今言われたように、町は教員に関しても手厚くしていることを、子育ての面で生かしたいと思っています。保護者からすると教育と医療は、大きなポイントです。そういった面では、もっとその教育の内容を知らしめたいと思います。今日はこれから岐阜県恵那市が本町の福祉について視察にきます。これも町のホームページを見て視察にくることになったと思います。これからも情報発信をしたいなと思います。

(山本委員) 町長から SNS 発信ってということがありましたが、昨日の高校生のアンケートの中で、日本、韓国、アメリカの高校生のアンケートの中で、SNS を活用する子供たちの数が多いのは日本らしいです。いくつかのアカウントを持っているってようなことの中で、今の世代っていうのはやっぱり SNS をいっぱい見ているということだと思います。それに近い親も当然見ていると思います。教育支援センターの職員がいて各校で今 ICT に力を入れていることがわかる。

あらゆることに手当てをしているってということと、教員が足りないって話の中で、

町単教諭を確保してやっていることがアピールポイントになってくると思います。だから、学校規模が小さいなりに、今度は学習内容をアピールしていきたいなっていう風にも思います。だから、やる気と感動っていう言葉がありましたけども、そういう教育っていうものを新たにこう目指していくっていうこともひとつの視点かなと思いました。そして発信っていうことを大事にしたいなと思います。

(市川教育長) 保護者の立場はどうでしょうか。

(望月(聡)委) 学校訪問をして、やっぱり先生は、個性がある子供たちに合わせて非常によく対応してくださっているなと感じます。私が保護者として思うのは、学力向上を頑張っていますが、中間テストの点数の分布では、500点中480以上取る人が何人いて、5教科なのに100点未満の子もやっぱりいます。どうしてこんなに差がつくのかなと思います。こんなに先生たち一生懸命対応してくださってICTも使っているのに、どうしてこうなるのだろうっていうのはもうすごく疑問に思う。また、なんぶ未来塾は、勉強が苦手な生徒はもっと利用してほしいなと思います。またPRしなくちゃいけないのかなと思います。

(町長) 町長に就任当時、学力テストの公表をどうするかという問題があって、公表することに賛成した。当時の静岡県知事も賛成していたが、静岡の学力はその後伸びたと思う。

(山本委員) 現在も公表している。結果を踏まえて課題になるものをしっかり把握して、それを現場で生かしていくかが大切である。結果で優劣をつけるというよりは、それを基に次のステップにいくことが大切である。読売新聞の記事では、平均した能力を身に付けるよりは、好きな分野を突き抜けていくそういう力が必要となってくるのではないかな。

(山本委員) 新しい能力はいつの時代でも環境によって変わり、学校でも企業でも取り組んでいる。ICTは、ただ使えばいいのではなく、それを使って将来どのように立ち向かうかという自己コントロールする能力を作っていくことが重要である。

(町長) 県内でも統廃合が進んでいる地域もあるが、ハード面よりもソフト面の整備が必要だと思う。

(教育長) 望月(聡)委員の意見は真摯に受け止め、今後の結果も踏まえながら議題にしていきたいと思う。続いて生涯学習課の意見をお願いします。

(山本委員) 宮西先生が学校訪問や出前授業を行ってもらっていることが大きい。これからは、色々な事業を整理統合していくこと必要である。

(望月(聡)委員) 宮西先生のイラストを使った挨拶運動のしおりはいい企画だなと思う。

友人が昨年の宮西先生のイベントに参加して、本町をほめてくれたことがありました。

(望月(正)委員) コロナ禍後の、生涯学習課のイベントや教室の開催は素晴らしいと思う。

(渡邊委員) イベントは人気があって、すぐに締め切りになってしまうことがあります。全体的にきめ細かくやってもらっている。

(町長) 田舎にいても一流のものに触れることができること目標にやっている。

(生涯学習課長) イベントの申込方法や抽選方法は検討していきます。

(望月(正)委員) 歴史や文化の学習の申し込みは、いつも同じ人なのか。幅広い方に参加してもらいたい。

(2) 令和6年度南部町教室支援センターの事業について

【教室支援センターの事業について、学校教育課長が資料により説明しました。】

(渡邊委員) 質問いいですか。Chrome 操作リテラシーの表の見方を教えてください。端末の操作と上に書いてあり1年生に○が付いていますが、これはどういう事ですか。

(若林教育課長) これは、小学校1年生の段階でこれは習得してくださいという事になります。

(若林教育課長) 基準用なのでそれぞれ系統になっていて、これを目安にこの技術を習得するということになっています。

(市川教育長) 中学に進学する時には、皆最初から同じ足並みを揃えてやっていくという所も強調されています。

(山本委員) 先日の学校訪問の中で、富沢小学校の5年か6年だったと思うのですが、調べ学習でパソコンがネットに繋がっていて自分達で調べていたのですが、そのタイピングの速さにちょっとびっくりしました。6年生の部分で考えると、このChrome 操作リテラシーの文字入力でいうと1,000文字程度のレポートを作成するは中学校レベルです。恐らくもうその域に近いと思います。それと、アプリ、ドキュメント、スプレッドシート、スライドの所でプレゼンテーションに動画や画像を入れる、アニメーションを付ける、それらを使って発表するというのが4年生、5年生段階という事ですが、もうその域に達しているのではないかと思います。見たのは富沢小学校だったと思うので、順調に進んでいるのかなと思いました。ただ、懸念するのはリテラシーの部分で『モラル』ですよね。ネットで調べたものが正しいかどうかという事をしっかり判断できる力を、教員側も指導していくという事を十分考えなくてはならないと思う。この前茨城県のつくば市で説明を受けた時、指導主事にICTの関係で説明を受けた時に、調べていって本当かどうかというのを自分達でまた確認をしていくという事で、リテラシー力をつけていくということがありました。ですので、リテラシーをつけるのは教わってつけるというよりも、自らの力で発見していくという取り組みだったと思います。視点的に言うと、教わって覚えるのかよりは自分で発見をして納得をして次の段階へ進んでいくという自分自身の学び、自己改革という形が必要だと思いますし、そういう事ができるのではないかと思います。これで段々と力が付けばつく程、そういう所を意識していかなければいけないと思います。教える側の方も同じです。

(市川教育長) ありがとうございます。

(望月(正)委員) リテラシーという技術ですね、凄い進歩で発展していると思います。この間睦合小の6年生のタイピングを見ていたら、ブラインドで1分間に200字位打てるという凄い子供がいました。そういう凄い子もいるのだけど、リテラシー表で全体が同じ様な技術を身に付けて中学校へ入っていく事によって、中学校に入った段階で同じ様な歩調で、同じ様な技術で、同じ様な能力で授業を受けられるというのが学習指導要領と同じですよ。全国的に同じレベルの学力をつけるという。そういう状況で入ってくるので、中学校もやり易いのではないかな。中には今言った様に突出した子がいても、リテラシー表によって1年生から6年生まで同じレベルに達して中学校に行き、また習うという、どこの町でもやっているかどうかは分かりませんが、南部町では良い取り組みをしていると思います。ただ、教室支援センター指導員がICTの教育を行っているのですが、学校によって温度差があると言っていました。

(市川教育長) はい。ありがとうございます。南部町はそういう状況にあるという事で、町長いかがでしょうか。

(町長) 非常によろしいですね。

(市川教育長) そういった点では、しっかりと南部町は取り組まれているという事ではないでしょうか。

(望月(正)委員) なかでも各校の情報収集をして、支援センター指導員が講師的な役割で指導している事が、大きな進歩と発展、技術向上の要だと言えるのではないのでしょうか。一生懸命にやっています。

(市川教育長) お子さんをご覧になっていて、望月委員はどうですか。

(望月(聡)委員) ICT おいて、本当に今の子供達は、親が教えなくても色々な事をどんどん自分で試しにやってみてしまうという感じなので、凄いのですが少し危ないなと感じる所もあります。あとは、この間学校訪問に行った時に富沢小がタブレットを持ち帰っていて、宿題の音読の録音というか、動画を撮影して先生に送っていますと言っていました。睦合小は、校長先生言うには「子供達の登下校の歩く範囲が広いので、遠い子供は持ち帰りが大変な為持ち帰りはさせていません。」という事でした。インフルエンザの時に家で使う為、家に持ち帰ったくらいだったと思います。授業で使っている内容は大体どこも同じ感じで使っているのですが、持ち帰るという点では睦合小と富沢小で差が出ていると感じます。

(市川教育長) はい、そうですね。そこもこれからどうしていくかが悩ましい所だと思います。

(渡邊委員) この南部町の情報リテラシーというのは素晴らしいですね。こういった端末の操作や文字入力、ファイルの管理というのは教師もこれを見て何処まで教えるのか、子供達が何処まで出来ていれば良いのかを理解できるので良いと思います。ただ、教師が追いつかないという事もあるのかなと思います。子供達が携帯端末やメディア操作に慣れていて感覚も違うので、教師の方がそれについていけるのかどうかが大切だと思う。もう一つは、南部町は各1人に端末を与えて不公平のないようにしているが、今盛んに言われている情報格差、情報を持った者が豊かな生活ができ、情報不足(情報端末を持っていない人)の人との格差を無くすというのが大切だと思います。そういった状況に教師の方がどれだけ追いついていけるのかも重要だと感じました。

(町長) 一つ心配なのが、子供達がパソコンを持ってやりますね。先生方と情報交換するじゃないですか。すると先生方が働き方改革の中で、家に戻ってもまた子供達の対応をしなければいけないというジレンマもあり、その変が少し心配ですね。

(山本委員) 私は詳しい訳ではないですが、一つ懸念するのは使い方です。インターネットのその先に何があるかは全然想定していないので、やってみたいという気持ちは分かりますが、逆に言うとその危うさをどう教えていくかという大事さが裏にはありますよね。自分の顔を晒して何かを表現していくという事は、賛同を得る事もあるが、逆にそれを悪用されるという怖さもあるので、それをしっかりと教えないといけないと思います。そこは学校で教えるというよりは、各家庭でしっかりと伝えて教育していく必要があると思います。あと使い方というと、意見交換など業務に関わる事はやらなければいけないし、例えば子供同士が何かの取組みについて意見交換し、それをずっとエンドレスにやっているような事態は、ある程度の歯止めをかけないといけないと思います。学校現場の中でそれを教えておかないと、子供達が大人になった時に自分自身を規制する力がつかないのではないかと思います。

(望月(正)委員) 情報モラルの話がでしたが、子供達が情報を取捨選択する判断能力が無いのではないかと。小学校3年生くらいからしっかりと情報モラル教育をしていく必要があると思う。今回7月11日に睦合小の担任が、「家のパソコンで」というタイトルの情報モラルを題材にした道徳のN授業を行うので、ぜひ観に来てください。そういう事を低学年のうちからやっておかないと、子供が高学年になりほとんど操作できる状態で独り歩きしてしまうと危険だと思う。それに親がついていけなくなると家での家庭教育や制限も難しいと思う。学校教育の中で低学年のうちから子供達が様々な情報を取捨選択できるよう、『モラルとは何か』を教えるべきだと思う。

(山本委員) つくば市では、自らそれを発見していくという様なやり方をしています。なので、色々な方向(視点)で、色々なアプローチの仕方を用意しておくことが大事だと思う。ICTの能力がある分だけ、色々な視点をつけていかなければいけないと思う。

(市川教育長) 社会問題化している事柄ですので、これについては子供達が正しい使い方ができるよう、万沢集学校と連携して取組んでいきたいと思います。

(3) 南部地区小学校の統合について

【南部地区小学校の統合について、学校教育課長より説明しました。】

(市川教育長) 午前中の定例教育委員会で、教育委員会としての意思決定がなされたという事です。町長まず、校名を公募するということが望ましいという事ですが、いかがでしょうか。

(町長) そうですね。

(市川教育長) では、公募をするということで。次に募集のチラシの内容について、一部決定のプロセスを付記するということで教育委員会の意見としてでました。ここの部分についていかがでしょうか。

(町長) 基本的には皆さんが決定するので良いのですが、一番懸念するのは富沢小学校の場合には、スムーズにいきました。富河と万沢で富沢。良い案が出てくることを期待しています。

(市川教育長) はい。ありがとうございます。秘書政策監どうでしょうか。

(秘書政策監) はい、校名って大切ですので、今後校名が決まれば子供達自身が愛着を持って、母校としていけると思います。公募としては限定せずに、多くの皆さんから意見を添えられておりますので、こんな形で進めていただければよろしいかなと思います。

(市川教育長) ありがとうございます。総務課長どうですか。

(遠藤総務課長) 町長と政策監が言ったとおりでありまして、公募によってこういった案件がでてくるのか非常に楽しみなところがあると思います。それをこちらで決定をして、皆さんに明確に報告するというのであれば、それで構わないと思います。

(市川教育長) はい。ありがとうございます。教育委員さんからも何かご意見があれば伺いたいと思いますが、よろしいですか。では町長、この形で進めさせて頂くということでよろしいですか。

(町長) はい。

(市川教育長) ありがとうございます。皆さんのご協力のおかげで、ほぼ予定の時間で終了することができたと思います。皆さんからその他として何かありましたらいただきたいと思います。町長いかがですか。

(町長) 課長の方にも言ったのですが、令和 8 年 4 月 1 日に開校ですから、まずそれ前にちゃんと校舎の改修ができていないといけない。施工業者が決定し、計画どおり工程が進むよう取り組んでください。

(市川教育長) はい。ありがとうございます。この件に関しましては今後、総合教育会議でも設計作業の進捗に応じて議題となっていく項目になろうかと思います。今の町長のご指摘をしっかりと胸に刻んで、取り組んで行きたいと思います。皆さん他にないですか。よろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。それでは、議事は以上で終了になります。お疲れ様でした。ありがとうございました。

5 閉会

(渡邊(正)委員) 長時間にわたり、本当にご意見ありがとうございました。外は非常に暑くて過ごしにくい毎日ですが、最初に町長さんが南部町の教育に非常に貢献して頂いた芦澤和彦先生の訃報について触れましたが、ぜひ皆さんも健康には十分注意して頑張ってくださいと思います。今日は第一回目という事で、教育委員会それから生涯学習の方から年間の行事説明、統合についての話がありましたが、本質に関わる意見もありましたが、具体的な意見も数多く出て、段々と次の総合教育会議があれば、またどんどんと南部町の教育が前向きに進んでいくと思います。町長が言ったように、着実に統合や建設も含めて、今まで緻密にやってきたように思いますが、ぜひ着実に進めて令和 8 年の開校にこぎ着けられたらいいなと思います。本当に今日は遅くまでご苦労様でした。以上となります。

以上